

漢語近世音と契丹文字漢字音(13)

—止摂歯音の拗音性の消失、荘・章組字の網羅的調査—

吉池孝一 中村雅之

残された問題

吉池：前回は『契丹小字研究』(1985)¹を中心に止摂の荘組と章組を検討しました。止摂荘・章組摩擦音の漢語音表記の専用字 $\text{ㄱ}\text{ṣi}$ 及び $\text{ㄱ}\text{ṣ}$ ṣi ($\text{ṣi}+\text{i}$) が、主要な文字として使用されることから、母音の拗音性は消失していたとみるのが穏当です。もっとも、止摂“荘組”摩擦音については、 $\text{ㄱ}\text{ṣ}$ ṣi という表記も併用されます。止摂荘組摩擦音に $\text{ㄱ}\text{ṣi}$ と $\text{ㄱ}\text{ṣ}$ ṣi が同時に現われる事実を、どの様に説明するかという問題が残りました。また、 $\text{ㄱ}\text{ṣ}$ ṣi の併用について、荘組と章組では違いがあるように見えることについて、どのように説明するかという問題も残りました。

中村：孫伯君(2009)²は、止摂の荘組字と章組字を同様に扱い、両者はまだ完全には $\text{i}[\text{ɰ}]$ となっていない、とする見方でした。我々の見方は、新出資料を加えて再調査をしなければ何とも言えない、またどのような語彙において ㄱ 、 $\text{ㄱ}\text{ṣ}$ 、 $\text{ㄱ}\text{ṣ}$ ṣi が使用されるのか、網羅的に調査する必要があるということでした。

そこで今回は、劉浦江・康鵬(2014)³の語彙索引と、劉鳳翥(2014)⁴所収の契丹文の全資料の模写と傍訳を主に利用して、止摂荘・章組摩擦音を網羅的に調査し検討することにしたわけです。

吉池：契丹小字の字形や訳の判定において、即實(2012)⁵も利用します。

止摂荘・章組摩擦音の網羅的(新出資料を加える)な検討

吉池：劉浦江・康鵬(2014)の語彙を、主に劉鳳翥(2014)所収の模写資料と傍訳を利用して確認します。なお、劉浦江・康鵬(2014)の語彙索引は、「 ㄱ / 興【興宗哀册(1055)】25-17 興36-14・・・宗【耶律宗教墓誌(1053)】10-25 宗10-29 宗13-8・・・ / 参考詞義：侍/師/史/使事/詩/氏/士/石(237頁)のように、「契丹小字の語彙/語彙の出所/参考詞義」の順に並べます。この語彙について、劉鳳翥(2014)によって、語彙の出所にある契丹小字と傍訳を

¹ 清格爾泰・劉鳳翥・陳乃雄・于寶麟・邢復禮(1985)『契丹小字研究』北京：中國社會科學出版社。

² 孫伯君(2009)「從契丹小字“ ṣ ”看支思韻在遼代的分立」『中國語文』2009(1)、77-79頁。

³ 劉浦江・康鵬(2014)『契丹小字詞彙索引』北京：中華書局。

⁴ 劉鳳翥(2014)『契丹文字研究類編』(第一冊～第四冊)北京：中華書局。

⁵ 即實(2012)『謎田耕耘：契丹小字解讀續』瀋陽：遼寧民族出版社。

確認すると、例えば、宗【耶律宗教墓誌(1053)】の10-25(第10行25字目)の~~𠂔~~については、~~止𠂔~~(防) ~~𠂔~~(禦) ~~𠂔~~(使)として役職名「防禦使」と読みます。そこで、当該の字に__を付し、「■~~𠂔~~ 10-25 防禦使」のように整理して提示します。劉浦江・康鵬(2014)の墓誌は順不同ですが、年代順に並べます。

なお、以下の項目に相当する語は、不確かな例と見なして取り消し線を付し、利用しません。

- ・漢字表記が不確実な人名。(漢字表記不確実な人名)
- ・劉鳳翥(2014)の模写資料が他の字として認識するもの。(字無し)
- ・劉鳳翥(2014)の模写資料に傍訳が無いもの。(傍訳無し)
- ・劉鳳翥(2014)の模写資料において、単独の字(一字のみ)に傍訳が付されたもの(傍訳の根拠が確認できない)。(単独の字)
- ・劉鳳翥(2014)の模写資料に、𠂔のように不明瞭であることを示す枠が付されたもの。(字形不明瞭)
- ・~~𠂔~~および~~𠂔~~に、止摂歯音字以外の傍訳が付されたもの。(止摂歯音字以外)

遼代

ア耶律宗教墓誌(1053)

■~~𠂔~~ 10-25 防禦使、10-29 觀察使、13-8 使相。~~𠂔~~ 19-4 詩於曰*~~𠂔~~は格語尾。~~𠂔~~ 7-6 (傍訳無し)。~~𠂔~~ 6-8 太師、21-21 太師、25-28 太師。

■~~𠂔~~ 11-15 度(令欠)使、11-27 度(令欠)使、11-31 度(令欠)使。~~𠂔~~ 11-2 度(令欠)使之*~~𠂔~~は格語尾。

イ興宗哀冊(1055)

■~~𠂔~~ 25-17 師(単独の字)、36-14 刺史。

ウ蕭令公墓誌【蕭高寧・富留太師墓誌】(1057)

■~~𠂔~~ 3-2 太師、6-7 政事令、8-17 太師令、9-2 太師、11-21 使相、12-6 太師、12-16 太師、16-5 敝史、16-13 敝史、17-11 度(令欠)使、18-21 太師、19-8 度(令欠)使、20-17 度(令欠)使、23-4 太師、28-6 太師。~~𠂔~~ 1-5 太師之、11-6 少師之、16-20 諸刺史之、21-11 太師之*~~𠂔~~は格語尾。

エ蕭圖古辭墓誌【蕭奮勿賦・圖古辭墓誌】(1068)

■~~𠂔~~ 5-7 太師、7-14 居圭(漢字表記不確実な人名)*即實(2012:95)は隋氏とする。いずれの漢字表記も根拠はない。8-8 刺史、9-29 官使。~~𠂔~~ 7-10 太師於*~~𠂔~~は格語尾。

■~~𠂔~~ 10-11 度(令余)使。~~𠂔~~ 9-33 度(令余)使之*~~𠂔~~は格語尾。

才耶律仁先墓誌 (1072)

■**凡** 9-52 都宮使、22-38 侍中、27-46 宮使、39-42 侍中、55-4 副使、55-46 太師、~~58-10~~ (傍訳無し)、61-28 太師、~~61-73~~ (字無し) *劉氏は**凡**とする。**凡** ~~凡~~ 5-29 太師之、13-45 平章事之、62-80 太師之 ***凡**は格語尾。**凡** ~~凡~~ 7-61 太師於、8-5 太師於、8-39 太師於 ***凡**は格語尾。

■**凡** ~~凡~~ 7-24 度(令欠)使、10-1 度(令欠)使、~~26-45~~ (傍訳無し)、~~58-46~~ (傍訳無し)。

力蕭特每夫人韓氏墓誌 (1078)

■**凡** ~~凡~~ 11-14 師古 (漢字表記不確実な人名) *即實(2012:207)は師姑とする。いずれの漢字表記も根拠はない。~~17-5~~ (傍訳無し)。**凡** ~~凡~~ 6-2 太師之、~~8-6~~ (字無し)、13-17 太師之 ***凡**は格語尾。**凡** ~~凡~~ 10-4 太師於 ***凡**は格語尾。

■**凡** ~~凡~~ 3-21 度(令欠)使。

キ耶律慈特墓誌 (1082)

■**凡** 8-1 太師、~~10-3 閻氏~~ (漢字表記不確実な人名) *即實(2012:257)は延詩とする。いずれの漢字表記も根拠はない。~~13-17~~ (傍訳無し)。~~凡~~ 7-14 太師、10-35 太師、10-38 太師、12-15 太師。

■**凡** ~~凡~~ 6-3 嚴實 (漢字表記不確実な人名)、~~6-33 嚴氏~~ (漢字表記不確実な人名)。*即實(2012:254-256)は奄昔とする。いずれの漢字表記も根拠はない。

ク耶律永寧郎君墓誌 (1088)

■**凡** 9-12 太師、10-10 太師、14-16 太師、14-28 太師、15-13 太師、~~20-22 哥梅氏~~ (漢字表記不確実な人名) *即實(2012:113)は過未失とする。いずれの漢字表記も根拠はない。22-3 太師、22-6 太師、23-24 太師、24-5 太師、24-27 太師、25-12 太師、27-4 太師。**凡** ~~凡~~ 12-7 太師之、24-22 太師之、32-9 太師之 ***凡**は格語尾。**凡** ~~凡~~ 22-16 太師於、22-23 太師於 ***凡**は格語尾。

■**凡** ~~凡~~ 12-9 度令欠使**凡**、~~21-34 世神奴~~、~~22-12 世神奴~~、~~23-20 世神奴~~。(漢字表記不確実な人名) *世神奴を十神奴とする研究者もあり。**凡** ~~凡~~ 16-22 度(令欠)使之、18-18 倣史之 ***凡**は格語尾。

ケ耶律迪烈墓誌 (1092)

■**凡** 1-11 節(令文)度(令)使、1-27 平章事、19-38 副宮使、20-29 節(令文)度(令)使、23-25 平章事、~~31-27 藥師奴~~ (漢字表記不確実な人名) *即實(2012:43)も藥師奴とする。漢字表記の根拠はない。**凡** ~~凡~~ 18-8 防禦使之、41-26 太師之 ***凡**は格語尾。

■**凡** ~~凡~~ 10-36 太師、12-10 太師、12-44 倣史。**凡** ~~凡~~ 12-17 度(令欠)使之、12-31 太師之、13-5 倣史之、25-22 度(令余)使之 ***凡**は格語尾。**凡** ~~凡~~ 31-2 太師於 ***凡**は格語尾。

コ耶律智先墓誌 (1094)

■**凡** 11-29 副宮使。

■**凡** ~~凡~~ 11-47 太師於、12-8 太師於、13-11 太師於 ***凡**は格語尾。

サ蕭大山與永清公主墓誌（1095）

■**元** 6-7 太師、7-31 迎使公主、8-30 度(令欠)使、9-7 使相、10-33 太師、11-23 太師、12-37 師姑(人名) *漢文墓誌に「師姑」とある、~~27-4 使元副令撰~~(漢字表記不確実な人名、使副が人名) *即實(2012:241) は**元**を漢語の「詩賦」の音写とする。確定が困難。32-6 靜江軍節(令文)度(行)使。**元** 6-23 太師之 ***元**は格語尾。

シ耶律奴墓誌（1099）

■**元** 12-27 副宮使、13-8 都宮使。**元** 27-21 太師之 ***元**は格語尾。**元** 33-5 詩於曰 ***元**は格語尾。

ス耶律弘用墓誌（1100）

■**元** 2-23 淑儀耿氏(人名。『遼史』にあり)、4-9 侍中、12-29 太師。

■**元** 18-26 宮使。

セ室魯太師墓誌（1100）

■**元** 1-3 太師、9-3 太師。**元** 額 1-4 太師之、13-4 太師之 ***元**は格語尾。

ソ宣懿哀册（1101）

元 19-22 (傍訳無し)。

タ耶律(韓)迪烈墓誌（1101）

■**元** 2-45 政事令、4-29 使相、5-7 侍中、5-37 侍中、6-5 侍中、6-16 使相、6-35 侍中、9-24 太師、13-2 副使、15-23 太師、20-29 太師、20-32 都宮使、22-24 太師。**元** 9-16 太師之 ***元**は格語尾。**元** 21-34 太師於 ***元**は格語尾。

■**元** 21-10 度(令欠)使。**元** 8-9 度(令欠)使之 ***元**は格語尾。

チ耶律副署墓誌（1102）

■**元** 7-6 太師、7-15 侍中、7-37 侍中、8-3 侍中、12-15 使相、12-26 侍衛、15-3 禮賓使、16-23 副宮使、16-31 副宮使、17-3 都宮使。**元** 7-10 太師之 ***元**は格語尾。

■**元** 17-19 度(令欠)使。**元** 10-14 度(令欠)使之 ***元**は格語尾。**元** 7-26 度(令欠)使之 ***元**は複数語尾 **元**は格語尾。

ツ耶律紉里墓誌【耶律貴安・迪里姑墓誌】（1102）

■**元** 5-13 太師、5-16 政事令、8-24 使相、11-15 刺史、~~15-5 道主奴~~(漢字表記不確実な人名) *漢字表記の根拠はない。**元** 9-7 太師之、~~14-18 出室之歲~~(止摂歯音以外)、~~22-24~~(傍訳無し) ***元**は格語尾。**元** 16-35 太師於 ***元**は格語尾。

テ許王墓誌 (1105)

■**凡** 7-28 侍中、~~9-10 藥師奴~~ (漢字表記不確実な人名) *即實(1996:159)⁶は『遼史』の藥師奴、瑤昇と同名としつつも、譯では堯師奴を当てる。漢字表記の根拠は判然としない。~~10-21~~ (字無し)、11-38 靜江軍節(令文)度(11)使、13-28 平章事、13-33 樞密副使、13-37 褒詩、13-39 詩曰、~~14-23 詩~~ (単独の字)、~~14-35 詩~~ (単独の字)、~~15-2 詩~~ (単独の字)、~~20-22 詩~~ (単独の字)、20-28 詩曰、29-21 褒詩、29-24 賜詩曰、35-7 太師、~~46-16 師~~ (単独の字)、~~45-15~~ (傍訳無し)、48-8 諸司事、49-6 刺史、~~49-44~~ (字無し)、~~55-17~~ (傍訳無し)、~~56-11 使~~ (単独の字)。**凡** ~~10~~ 51-36 太師之***凡**は格語尾。**凡** ~~10~~ 3-22 殿中侍 (字形不明瞭)、~~31-5~~ (傍訳無し)。**凡** ~~10~~ 6-21 侍中、**凡** ~~10~~ 7-20 太子 (字形不明瞭)、16-33 侍中。
■**又** ~~10~~ 6-15 軍之度(令欠)使、7-17 軍之度(令欠)使。

ト梁國王墓誌 (1107)

■**凡** 2-41 太師、~~3-33 齊世~~ (漢字表記不確実な人名) *即實(2012:319)は喜時とする。いずれの漢字表記も根拠はない。4-3 太師、4-17 太師、4-41 太師、4-44 太師、6-55 都宮使、8-13 都宮使、8-49 使相、~~11-59~~ (字無し)。**凡** ~~10~~ 2-43 太師之***凡**は格語尾。**凡** ~~10~~ 14-45 (傍訳無し)。
■**又** ~~10~~ 9-3 度(令欠)使。

ナ涿州刺史墓誌【澤州刺史墓誌銘殘石】 (1108)

■**凡** ~~10~~ 1-1 師 (単独の字)、19-10 團練使、20-6 刺史、20-12 度(令欠)使。

ニ皇太叔祖哀册 (1110)

■**凡** 2-25 刺史、2-31 防禦使、2-41 殿中侍御史。**凡** ~~10~~ 2-14 右僕射使、2-21 諸軍事、2-39 殿中侍御史。

又宋魏國妃墓誌 (1110)

■**凡** 2-25 刺史、2-31 防禦使、2-41 御史、7-33 禮賓使、10-15 平章事、11-16 團練使。**凡** ~~10~~ 2-14 使持節 (止摂齒音以外) ***凡**が想定される場所、~~10~~が使用されるのは何故か要検討、2-21 諸軍事、2-39 殿中侍。

ネ故耶律氏銘石 (1115)

■**凡** 2-5 觀察使、25-19 太師。**凡** ~~10~~ 16-1 國師於***凡**は格語尾。
■**又** ~~10~~ 5-34 太師、6-9 太師。**又** ~~10~~ 7-1 太師之***凡**は格語尾。
■**凡** ~~10~~ 4-7 室、~~18-21 室~~ (止摂齒音以外) *劉鳳翥(2014)⁷は前後の文意より漢語借用語「室」とするが、後日の検

⁶ 即實(1996)『謎林問徑—契丹小字解讀新程』瀋陽：遼寧民族出版社。

⁷ 劉鳳翥(2014)「契丹小字《故耶律氏銘石》考釋」『契丹文字研究類編』北京：中華書局、268-273 頁。

討を待つとする。又各という表記の存在が興味深いのでここに挙げた。

金代

ノ蕭仲恭墓誌（1150）

■**元** 7-11 契丹史撰、11-37 少師、12-21 少師、~~13-35 使~~（単独の字）、20-21 少師、20-45 少師、23-7 修國史、23-18 三省事、~~29-33 老師古~~（漢字表記不確実な人名）*即實(1996:125)は勞十古とする。いずれの漢字表記も根拠はない。**元**各 22-21 平章政事、27-7 侍郎、27-20 侍郎、28-48 侍郎、43-16 侍郎、44-35 侍郎。**元**各 8-9 副宮使、8-15 觀察使。**元**和 27-55 太師之*和は格語尾。**元**各和 42-25 三師之*各は複数語尾、和は格語尾。**元**各各 36-35 三師*各は複数語尾、各は格語尾。

■**元**各 16-14 婁室夫王（止摂歯音以外）。

ハ金代博州防禦使墓誌（1170）

■**元** ~~12-1~~（字無し）、22-40 刺史。**元**各和 20-2 觀察使之*和は格語尾。**元**和 ~~16-29 使之~~（単独の字）*和は格語尾。**元**各 23-44 防禦使。

■**元**各 43-11（字無し）。**元**各矢只 9-11 軍師。

ヒ尚食局使蕭公墓誌【蕭居士墓誌】（1175）

■**元**蓋 2-4 上師居士、1-11 上師居士、3-47 太師、4-48 太師、6-40 刺史、11-43 平章政事、12-6 指揮使、~~14-39~~（傍訳無し）、~~24-25 史~~（単独の字）*直前の語に傍訳が無いため**元**のみを史と読むのは困難、25-10 刺史。**元**和 3-49 太師之、5-9 太師之、7-24 結(令文)實(元)之（漢字表記不確実な人名）*人名結實。即實(2012:341)は人名ではなく官名の節度使の簡略表記令文(節)-元(使)ではなかろうかとする。いずれにしても確かな根拠はない。*和は格語尾。

■**元**各蓋 2-2 上師居士、1-9 上師居士、4-43 度(令欠)使、13-14 上師。**元**各各 27-12（傍訳無し）。**元**各各矢 25-31 師崇於（漢字表記不確実な人名）*人名師崇。*27-12 及び 25-31 のいずれも即實(2012:344)は土區とする。漢字表記の根拠はない。**元**各和 5-37 度(令欠)使之*和は格語尾。**元**各各矢及伏 3-17 實(元)突(矢丞)寧(伏)（漢字表記不確実な人名）*即實(2012:337)は土篤訥とする。いずれの漢字表記も根拠はない。

作製年未確定

フ韓高十墓誌（1076～）

■**元** 10-30 太師、12-6 太師、15-5 副宮使、18-23 都宮使、24-7 使相、26-19 侍中。**元**和 2-8 太師之、11-14 太師之*和は格語尾。**元**各 16-10 都宮使、19-18 宮之使。

■**元**各 20-11 度(令欠)使、22-26 度(令欠)使、23-9 度(令欠)使。**元**各和 18-15 度(令欠)使之、19-23 度(令欠)使之*和は格語尾。

ヘ海棠山契丹小字墓誌殘石（不明）

■**元**各 2-5 度(令欠)使**元**各。

ア～へにより図表を作ると次のとおりです。漢字の右に付した数字は出現頻度。1 の場合は数字を付しません。当該の字に__を、注意すべき語に_____を付しました。

資料	声母	ㄉㄣˊ	ㄉㄛˊ	ㄉㄨㄥˊ
遼代				
ア	荘組	防禦使、觀察使、使相、太師 3		度(令欠)使 4
	章組	詩		
イ	荘組	刺史		
ウ	荘組	太師 9、政事令、太師令、使相、敝史 2、度(令欠)使 3、少師、刺史		
エ	荘組	太師 2、刺史、宮使。		度(令余)使 2
オ	荘組	都宮使、宮使、副使、太師 7、平章事		度(令欠)使 2
	章組	侍中 2		
カ	荘組	太師 3		度(令欠)使
キ	荘組	太師 5		
ク	荘組	太師 17		度令欠使 2、敝史
ケ	荘組	節(令文)度(令)使 2、平章事 2、副宮使、防禦使、太師		太師 4、敝史 2、度(令欠)使、度(令余)使
コ	荘組	副宮使		太師 3
サ	荘組	太師 4、迎使公主、度(令欠)使、使相、師姑(人名)、靜江軍節(令文)度(令)使		
シ	荘組	副宮使、都宮使、太師、詩		
ス	荘組	太師		宮使
	章組	淑儀耿氏(人名)、侍中		
セ	荘組	太師 4		
タ	荘組	政事令、使相 2、太師 6、副使、都宮使		度(令欠)使 2
	章組	侍中 4		
チ	荘組	太師、使相、禮賓使、副宮使 2、都宮使、太師		度(令欠)使 2、度(令欠市)使
	章組	侍中 3、侍衛		

ツ	荘組	太師 3、政事令、使相、刺史		
テ	荘組	靜江軍節(令文)度(17)使、平章事、樞密副使、太師 2、諸司事、刺史		軍之度(令欠)使 2
	章組	侍中 3、詩 5		
ト	荘組	太師 6、都宮使 2、使相		度(令欠)使
ナ	荘組	團練使、刺史、度(令欠)使		
ニ	荘組	刺史、防禦使、殿中侍御史	右僕射使、諸軍事	
	章組		殿中侍御史	
ヌ	荘組	刺史、防禦使、御史、禮賓使、平章事、團練使	諸軍事	
	章組		殿中侍	
ネ	荘組	觀察使、太師、國師		太師 3
金代				
ノ	荘組	契丹史撰、少師 4、修國史、三省事、太師、三師 2	平章政事、副宮使、觀察使	
	章組		侍郎 5	
ハ	荘組	刺史	觀察使、防禦使	軍師
ヒ	荘組	上師居士 2、太師 4、刺史 2、平章政事、指揮使		上師居士 2、度(令欠)使 2、上師
未確定				
フ 1076~	荘組	太師 4、副宮使、都宮使、使相	都宮使、宮之使	度(令欠)使 5
	章組	侍中		
ヘ 不明	荘組			度(令欠)使

(図表 2)

中村：〈図表 2〉には課題が三つほどあります。順番に検討しましょう。

一、「度使」の度は令欠と令余と令と令欠市の四種で表記される。どのような違いがあるか。

二、「度使」の使に又々 si が多用される。これをどのように理解するか。

三、凡各は、遼代 (916-1125) の末期 (皇太叔祖哀册 1110 年) から金代にかけて使用される。

これをどのように理解するか。

「度使」の度、四種の表記の違いは何か

吉池：「度使」の度は、令欠と令余と令と令欠市の四種で表記されるわけですが、令欠と令余

の音については、吉池孝一・中村雅之(2020)⁸で検討しました。欠と余は破裂音 g (契丹語音を解釈する立場の違いにより k とも表記し得る⁹) を含む音であり、「度」の入声韻尾-k を表記したものとししました¹⁰。なお、度使は節度使の省略とされます¹¹。また、度の中古音には去声と入声の両音があるが、契丹語文では入声で読まれたこととなります。

中村：ㄗの音については『契丹小字研究』(1985)¹²は [tu] (契丹語音を解釈する立場の違いにより du とも表記し得る。注9参照。以下注記しない) とし入声韻尾-kに相当する破裂音は認めません¹³。問題は令欠币です。なぜ币が付されるのでしょうか。

吉池：資料チの耶律副署墓誌(1102)の7行目の「度使」ですね。劉鳳翥(2014)所載の模写と傍訳には「令欠币(度) 又欠无和(使之)」とあります。蓋之庸・齊曉光・劉鳳翥(2008)¹⁴によると、7行目は墓主の先人耶律古昱の事績を述べた部分であり、その役職を『遼史』巻92の耶律古昱傳が「節度使」とすることにより「令欠币(度) 又欠无和(使之)」と読みます。契丹小字币の表記については何も述べません。

⁸ 吉池孝一・中村雅之(2020)「漢語近世音と契丹文字漢字音(7)―契丹小字の入声表記、度の韻尾―」『KOTONOHA』第215号(2020年10月)、1-14頁。

⁹ 契丹語の破裂音と破擦音は二項の対立である。音質に対する解釈の違いにより、その表記は、b,d,g,dʒ と p,t,k,ʃ とするか、p,t,k,ʃ と pʰ,tʰ,kʰ,ʃʰ とするか、b,d,g,dʒ と pʰ,tʰ,kʰ,ʃʰ とするかの違いがある。このことについては、吉池孝一・中村雅之(2020)「漢語近世音と契丹文字漢字音(7)―契丹小字の入声表記、度の韻尾―」『KOTONOHA』第215号(2020年10月)、1-14頁の注3と注4を参照。なお、対談者は p,t,k,ʃ と pʰ,tʰ,kʰ,ʃʰ とする立場であるが、p,t,k,ʃ について便宜的に b,d,g,dʒ で表記する場合がある。本文において「欠と余は破裂音 g」としたのは混乱を避けるための便宜である。

¹⁰ 先行研究を精査することによりこの結論を得た。欠については、耶律仁先墓誌の漢文中の民族名「朮不姑」が契丹小字文の朮生欠に相当することより、漢字訳語の姑(楊耐思(1981)『中原音韻音系』はku)と欠と対応させ、欠をguとすることができるとした。また余については、干支の丙を表わす𐰽𐰺余が赤を示し、『説郛・重編燕北錄』で契丹語の赤の音訳漢字を「掠胡(一本では掠姑とする)」とすることより余に「胡(姑)」が対応させることができること、また「度使」の度の表記に於いて令欠と令余が交代することの二点より、余もguのような音を持つとした。

¹¹ 劉鳳翥(2010)「契丹小字《耶律宗教墓誌銘》考釋」『文史』2020(4)、劉鳳翥(2014)『契丹文字研究類編』70-79頁所収に、「契丹文字中經常用「度使」省稱「節度使」(73頁)とある。耶律宗教墓誌は漢文と契丹小字文が出土しており、漢文墓誌によると墓主の職歴に「故保義軍節度使」「判奉先軍節度使」とあり、契丹小字文の墓主事績部分には令欠-又欠(度使)とあるので、度使は節度使の省略としてよい。

¹² 清格爾泰・劉鳳翥・陳乃雄・于寶麟・邢復禮(1985)『契丹小字研究』北京：中國社會科學出版社。

¹³ 『契丹小字研究』(1985)の69頁は、「靜江軍節度使」(許王墓誌11行)の「度」、「都統」(許王墓誌18行)の「都」、「都點檢」(蕭仲恭墓誌20行)の「都」をㄗで表記することよりㄗ [tu] とする。

¹⁴ 蓋之庸・齊曉光・劉鳳翥(2008)「契丹小字《耶律副部署墓誌銘》考釋」『內蒙古文物考古』2008年第1期。劉鳳翥(2014)、205-216頁所収による。

即實(2012)は令欠帀-ㄨㄨㄥㄨと、令欠帀(度)とㄨㄨㄥ(史)のそれぞれに複数語尾帀とㄥが付される奇妙な表記になっているとします¹⁵。帀を使用する例は一例のみなので、この表記の理由を明らかにするのは困難です。この例は、例外として令欠(度)ㄨㄨ(使)に含めて良いのでしょうか。

中村：「度使」の表記には、入声韻尾を表記した「度」令欠や令余と、入声韻尾を表記しない「度」ㄨがあり、それらとㄨㄥㄨとㄨㄨㄥㄨの結び付き方が興味深いですね。

度使の使にㄨㄨが多用されるのはなぜか

吉池：単純に出現頻度をまとめると次の通りです。これをどのように理解するか。

- ・度(ㄨ du)使(ㄨㄥㄨ)とする例は合計4例

資料ケの節度使2、資料サの靜江軍節度使1、資料テの靜江軍節度使1

- ・度(令欠 d-g)使(ㄨㄥㄨ)とする例は合計5例

資料ウの度使3、資料サの度使1、資料ナの度使1

- ・度(令欠 or 令余 d-g)使(ㄨㄨㄥㄨ)とする例は合計29例

度(令欠)使(ㄨㄨㄥ)は、資料アの度使4、資料オの度使2、資料カの度使1、資料クの度使2、資料ケの度使1、資料タの度使2、資料チの度使3、資料テの度使2、資料トの度使1、資料ヒの度使2、資料フの度使5、資料への度使1

度(令余)使(ㄨㄨㄥ)は、資料エの度使2、資料ケの度使1

中村：「度使」の表記は、入声韻尾を反映した旧式の音である度(令欠 or 令余 d-g)と、拗音性を反映した旧式の音である使(ㄨㄨㄥㄨ)が結び付く表記が主流で、29例あります。それに対して、「節度使」の「度使」の表記は、入声韻尾が消失した(度の中古音には去声と入声の両音がある。去声であるかもしれない)新式の音である度(ㄨ du)と、拗音性が消失した新式の音である使(ㄨㄥㄨ)が結び付くもので、4例あります。これによると、「度使」と、「節度使」という語における「度使」は、異なる借用漢語音の語として区別されていたことがわかります。

問題は旧式の表記と新式の表記が混じったように見える「度(令欠 d-g)使(ㄨㄥㄨ)」が合計5例あり、これをどのように考えるかということです。

吉池：「度使」という語については、旧音を保持した度(令欠 or 令余 d-g)使(ㄨㄨㄥㄨ)という音と表記が本来のものであったけれども、当時の止摂莊組摩擦音は拗音性を消失していたので、その影響で、「度使」の使(ㄨㄨㄥㄨ)を、使(ㄨㄥㄨ)に置き換えて発音し表記したということでしょう。もっとも、燕雲地方一帯の所謂“漢児”は様々な構成であったでし

¹⁵ 「令欠帀-ㄨㄨㄥㄨ 是怪異的綴寫，在度使二字之末均附複數詞綴。其實寫爲令欠-ㄨㄨㄥㄨ 便可明了。」299頁。

ようから、話は簡単ではないかもしれませんが。

中村：「話が簡単でない」とは、どういうことでしょうか。

吉池：契丹語の固有語に ʃi はなく、 ʃi はあったので、契丹人はとかく ʃi と訛る。「度使」という旧音を保持した語については、「使」は ʃi で良いところ、契丹人は ʃi に矯正し過ぎてしまったということでしょう。他方、契丹語を話す漢人にしてみれば、止摂荘組の摩擦音は拗音性を消失していたので、「度（ ㄉ or ㄉ ）使（ ㄝㄝ ʃi ）」の「使（ ㄝㄝ ʃi ）」を、「使（ ㄝㄝ ）」としてしまうのは自然なことです。

中村：「度使」の三種の表記についてはそのような理解が可能であるとして、より大きな問題は、「度使」の「使」以外の止摂荘組摩擦音の字である「史」「師」などが、 ㄝㄝ ʃi で表記される場合が少なくないことです。これをどのように理解するか。

「度使」の「使」以外に ㄝㄝ ʃi が併用されるのはなぜか

吉池：「度使」の「使」以外に ㄝㄝ ʃi が併用されるのは、遼代についてみれば、資料クの敝史1、資料ケの太師4 と敝史2、資料コの太師3、資料スの宮使1、資料ネの太師3。金代についてみれば、資料ハの軍師1、資料ヒの上師居士2、上師1です。漢字としては「師」「史」「使」の三種です。語彙に拠る偏りは明瞭ではないので、「度使」のような説明はできませんね。

中村：「師」「史」「使」を含め、止摂荘組摩擦音の字は、全期をとおして漢語音専用字の ㄝㄝ で表記されるので、契丹語に無い音節として認識されていたことは明らかです。これを ʃi のような音と見ていいのでしょうか。

吉池：そうすると、燕雲地方一帯の“漢児”の内、漢語を話すことができた契丹人やモンゴル人は、止摂荘組の ʃi を聞いて、この ʃi を、自らの固有語にある音の ʃi と誤認することがあった。その結果、「師」「史」「使」を、 ㄝㄝ や ㄝㄝ で表記したり ㄝㄝ ʃi で表記したりした、ということでしょうね。

中村：「 ʃi を ʃi と誤認した」とはどのようなことでしょうか。

吉池：外国人として北京語を聞いた私の印象ですが、捲舌音 zhi,chi,shi と舌尖音 zi,ci,si と舌面音 ji,qi,xi のうち、 zhi,chi,shi の [ʃ] は、 ji,qi,xi の [j] に近く聞こえ、 zi,ci,si の [ʃ] とは隔たりを感じます。

“漢児”は、 ㄝㄝ で漢語の止摂精組 $\text{ts} \ddot{i}$, $\text{ts}^h \ddot{i}$, $\text{s} \ddot{i}$ を、 $\text{ㄝㄝ$ で $\text{ts} \ddot{i}$, $\text{ts}^h \ddot{i}$ を（なぜか ㄝㄝ $\text{s} \ddot{i}$ は無

い)、**傘**で ts i を、**秀**で ts^h i を表記したわけですが、i[ɿ]を特徴のある音として認識できたため、止摂精組の諸字については、**关** i を利用した**傘**或**傘**などを併用することは無かった。それに対して、止摂莊組摩擦音の場合は、**朮**・**朮** sī[sɿ]と**又** f i を併用するわけですが、それはなぜか。漢語を話すことができた契丹人やモンゴル人は、i[ɿ]と i[i]とを誤認することは無かったが、i[ɿ]の方は i[i]と近似して聞こえたため誤認したのではないのでしょうか。それで、敝史、太師、宮使、軍師、上師において**又** f i が併用される場合があったと考えています。

漢語音表記法の精密化

中村：莊・章組字において、**朮**に**伞** i を付した**朮**が、遼代（916-1125）初期から中期にかけて使用されず、遼代末期（皇太叔祖哀册 1110 年）から金代にかけて出てくるのはなぜか、ということについて確認しておきましょう。この点について、吉池さん、以前言及してましたね。

吉池：吉池孝一(2004a,b)¹⁶です。吉池(2004a)は、止摂精組字の場合、最初に漢語音 tsī, ts^hi, sī を表記するために漢語音専用字の**朮**が作られ、その後、漢語音の分析が進み中舌的母音**伞** i が析出され、**傘**で tsī, ts^hi を、**傘**で tsī を、**秀**で ts^hi を表記するという表記法ができたとなりました。もっとも sī については、**傘**は用いられず**朮**で表記されます。なぜ sī の表記に**傘**が用いられないのか、この点については今後の課題としました。

吉池(2004b)は、止摂莊・章組摩擦音について、最初に sī を表記するために漢語音専用字の**朮**が作られ、その後、漢語音の分析が進み、中舌的母音が析出され、正書法の改善がみられて**朮** sī[sɿ]が現れたとしました¹⁷。

中村：最初は、漢語特有の音を持つ“音節全体”に着目して漢語専用字の**朮**や**朮**を作り、後に音節内部の特殊な母音に着目して漢語専用字の**伞**を作り音節を分析的に表記したというのは、音の認識の深化という点では自然な流れです。遼代末期には、止摂莊・章組摩擦音声母の字の i[ɿ]が、止摂精組字の i [ɿ]と同一の音韻として認識され、**伞** i で表記されるようになったわけですが、これは様々な構成よりなる“漢児”の内、燕雲地域一帯の漢人の音韻観

¹⁶ 吉池孝一(2004a)「止攝開口精母系の漢語音を表わす契丹小字について」『KOTONOHA』14、11-14 頁。吉池孝一(2004b)「止攝開口莊章母系の漢語音を表わす契丹小字について」『KOTONOHA』15、11-14 頁。これらは吉池孝一・中村雅之・長田礼子(2020)『契丹語と契丹文字 付碑文拓本9種画像 (JPEG)』愛知：古代文字資料館、89-92、93-96 頁所収。

¹⁷ 「**朮**は全期にわたり使用され、中舌的母音**伞** i をもちいて二字で表記する**朮** f i のほうは後半期にあらわれる。その経過をいえば、後半期に漢語音の分析の進展と正書法の改善がみられ中舌的母音が析出された。この母音に**伞** i を当て二字で表記する**朮** f i があらわれ、**朮**と**朮** f i を併用する状況となったということであろう。」(12 頁)。なお、吉池 (2004b)は**朮**と**朮**の音を f i とするが、これは本対談の sī[sɿ]と実質的には同じと見てよい。

の反映とみていいのでしょうか。

ところで、止摂「章組」摩擦音に ʃi と誤認された例が無いのはどういうことでしょうか。例が少ないことによる偶然でしょうか。

章組字が ʃi で表記されないのはなぜか

吉池：章組字摩擦音で、 ʃ や ʃ ʃ で表記されているのは、下記の 29 例です。

ʃ は、資料アの詩 1、資料オの侍中 2、資料スの淑儀歌氏（人名）1 と侍中 1、資料タの侍中 4、資料チの侍中 3 と侍衛 1、資料テの侍中 3 と詩 5、資料フの侍中 1。

ʃ ʃ は、資料ニの殿中侍御史 1、資料ヌの殿中侍 1、資料ノの侍郎 5。

中村：章組字と莊組字の摩擦音が、『中原音韻』（1324 年序）のように共に拗音性が消失して同音となっていたならば、 ʃi の現れる比率に、章組字と莊組字の間に大きな差はないはずですが、その点はどうでしょう。

吉池：章組字は合計 29 例で、そのうち ʃi は 0 例です。莊組字は、旧音を保持した「度（ ㄨㄛ or ㄨㄛ d-g）使（ ʃi ）」の 29 例を除くと、合計 185 例で、そのうち ʃi は 18 例です。例数の比率（9.7%）から見て、章組字 29 例中に、 ʃi は 2~3 例有っても不思議ではないのですが実際は 0 です。0 となっていることについて、誤差の範囲だと言い切って良いものかどうか、ためらいがあります。

章組字の ʃi が 0 であるのは何らかの事由によるもので偶然の結果なのか、それとも、章組字と莊組字との間に何らかの音の差異がありそれが反映して 0 となっているのかということですか。

中村：止摂齒音について、『中原音韻』（1324 年序）では章組字と莊組字は同音ですが、『蒙古字韻』（1308 年朱宗文校訂序）は異なるので、音の差異が反映して 0 となっているという可能性はあり得ます。しかし、『蒙古字韻』では、止摂章組字は拗音性を保持し、止摂莊組字は拗音性を消失しています。一方の契丹小字資料（1053-1175 年）の所謂借用漢語音では、止摂章組字に拗音性を保持した ʃi が無く、止摂莊組字に拗音性を保持した ʃi が有ります。拗音性の有無について、『蒙古字韻』と契丹小字の借用漢語音とでは逆なので、音の差異の反映とは考えにくいですね。

吉池：章組字 29 例中を見ると、14 例が「侍中」であり多数を占めています。「侍中」の「侍」は語頭に位置しています。語頭の音には意識が集中し、比較的誤読は起こりにくいと考えていいでしょう。このようなことが影響して、比率としては、章組字にも ʃi は 2~3 例有っても不思議ではないのですが、実際は 0 となっているということではないでしょうか。

中村：今回の議論を整理すると次のようなことですね。

契丹小字資料（1053-1175年）中の所謂借用漢語の止撰莊・章組の摩擦音声母を持つ字の拗音性は消失していた。破裂音声母を持つ字については、例が少ないため確実なことは言えない。破裂音については改めて確認する必要がある。

莊組字で𠬪・𠬪𠬪 ḡi と拗音性のある𠬪𠬪 ḡi が併用されたことには二つの理由がある。一つは、「度使」（𠬪𠬪 or 𠬪𠬪 d-g + 𠬪𠬪 ḡi）が旧音を保持した語彙であったためである。二つは、「敝史・太師・宮使軍師・上師居士・上師」の「史」「師」「使」が𠬪𠬪 ḡi でも併記されるのは、「史」「師」「使」の ḡi[ʃ] が、燕雲地方一帯の“漢児”によって契丹語音の ḡi と誤認されたためである。

なお、章組の摩擦音声母を持つ字に𠬪𠬪 ḡi が使用されないのは、多数を占める「侍中」の「侍」が語頭に位置し、比較的誤読が起りにくいことが影響して、偶然に例数が 0 となったものである。

次回の問題

中村：止撰莊・章組の場合、検討できた例は摩擦音のみでした。破裂音はどうであったか、挙げることができる例は少数かもしれませんが、確認をしておきたいですね。

吉池：破裂音もそうですが、「度使」のような旧音を保持した語彙をどの様に考えるかという問題も残っています。日本漢字音や朝鮮漢字音のような漢字音として“契丹漢字音”を認めるか、それとも何らかの借用漢語音が反映したものとするかという問題です。

中村：今回はこれまでとしましょう。次回は、先ず止撰莊・章組破裂音の状況を確認し、次いで、入声韻尾の有無と止撰齒音の拗音性の有無をめぐる議論の締め括りとして、“契丹漢字音”の問題を検討しましょう。